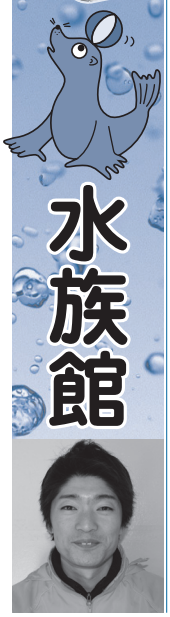
読む 水族館



館長　小林龍二

竹島水族館
☎68◆2059

郷土のアシカショー

■郷土の○○

博物館や美術館に行くと「郷土の歴史」とか「郷土の自然」「郷土の画家」などのコーナーがあります。竹島水族館も三河湾の魚を展示しているので「郷土の魚」のコーナーがありますし、あるとき「郷土のアシカショー」ができないかと考えました。アシカショーに郷土の言葉「三河弁」を入れたら郷土のアシカショーになるかな、と思ったのです。

■実施と失敗

私は蒲郡生まれの蒲郡育ちなので普段の会話は三河弁を自然に使っています。そのため、ショーへの組み込みも簡単でした。

「ほいじゃぁアシカショーを始めるでのん、ショーをがんばっとくれるのはアシカのラブちゃんだでねぇ、最後まで応援しとくれん。」ショー中は意識して「ほいだもんだで」「だらぁ」などを使い、種目に失敗したら「おしゃぁ、わやだのん」「あかんがや」。

しかし、このように試験的にショーで三河弁を使ってみるとお客さんの反応にかなりの違和感というか極度の温度差がありました。最近は蒲郡以外の場所からくるお客さんが多いし、三河弁は他の地域の方にとっては少しトゲがあり怒っているように聞こえる。三河弁自体最近はおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に暮らしている家庭以外はなじみが薄くなんだかちょっと悲しい状況、というイメージからでしょうか。お客さんはみんな、あのアシカショーのお兄さんしゃべり口調がヘンだね、という反応で、やや半笑いのお客さんもいます。それに気が付き、こりゃあかんぞん、ということで慌てて途中から徐々に標準語に直してショーを終わらせ作戦失敗・無念の敗北となりました。

■三河弁アシカショー

そうこうしているうちに、最近新たにデビューした竹島水族館初の女性アシカショートレーナーの荒木美里がほどよく自然に三河弁を駆使して非常に良いショーを始めました。しかも本人は三河弁を意識していない。先を越された。研究の末、ショーのすべてに三河弁を使わず、お客さんへの進行や種目説明、解説には標準語を使い、ショー中のアシカと私のやりとりの会話だけに三河弁を取り入れることにしました。これはなかなかうまくいきました。これからこのスタイルの更なる進化と改良に取り組み「郷土のアシカショー」の確立をもくろんでいます。

図書館 めくるくん通信

図書館 ☎69◆3706

図書館へ行こう

常設コーナーには“今月の特集”や“新着資料”などいろいろなコーナーがあります。今月は“まちづくりの本”コーナーを紹介します。

◆“まちづくりの本”コーナー

まちづくりに関する本を各ジャンルから集めました。2年前に誕生した新しいコーナーです。

市の行政、地域防災、観光、町内会、まち歩きや町おこしなどの本が並びます。

＜本の一例＞

『町の未来をこの手でつくる
紫波町オガールプロジェクト』
猪谷千香／著　幻冬舎

高齢化・過疎化・財政難に直面する岩手県紫波町。今では駅前エリアに年間90万人以上が訪れる。補助金や大手企業に頼らない、公民連携によるまちづくりとは？

図書館に入った本

毎月1,000冊以上の本が入ります。
一部をご紹介します♪

小説
『終わりなき夜に生れつく』
恩田 陸／著　文藝春秋
『回帰』
今野 敏／著　幻冬舎

健康
『症状別でわかる認知症のトラブル対処法』
河野 和彦／監修　現代書林
『やわらかく、飲み込みやすい
高齢者の食事メニュー 122』
中村 育子／監修　ナツメ社

巡礼・仏教
『スマホ片手にお遍路旅日記
四国八十八カ所霊場めぐりガイド』
諸原 潔／著　日本地域社会研究所

子ども
『教科書に出てくる生きもののすみか1』
学研プラス
『ねこ天使とおかしの国に行こう！』
中井俊已／作　木村いこ／絵　PHP研究所
『0－5歳児 病気とケガの
救急＆予防カンペキマニュアル』
渋谷紀子／監修　学研プラス

貸出中の場合もありますので、本が見当たらない時はお気軽に職員にお尋ねください。